

人文学部 前期日程 令和4年度入学試験「総合問題」

解答および出題意図

I

問1 (解答例)

療養のために海外へと送られたことが、彼女自身がそれまで所属していた社会の抑圧を離れ、世界中を旅するきっかけとなったということ。それ以来、心身症を克服しただけではなく、死の瞬間まで世界中を旅し続けていることから、彼女自身が抑圧的な社会からの逃避を求めていると考えられる。(134字)

問2 (解答例)

旅は女性が社会の抑圧から解放され、新しい自己を獲得するきっかけとなるという考えに対して、旅行記が常に事実を映し出しているわけではなく、解放された女性像というものも虚構である可能性があるから。(95字)

問3 (解答例)

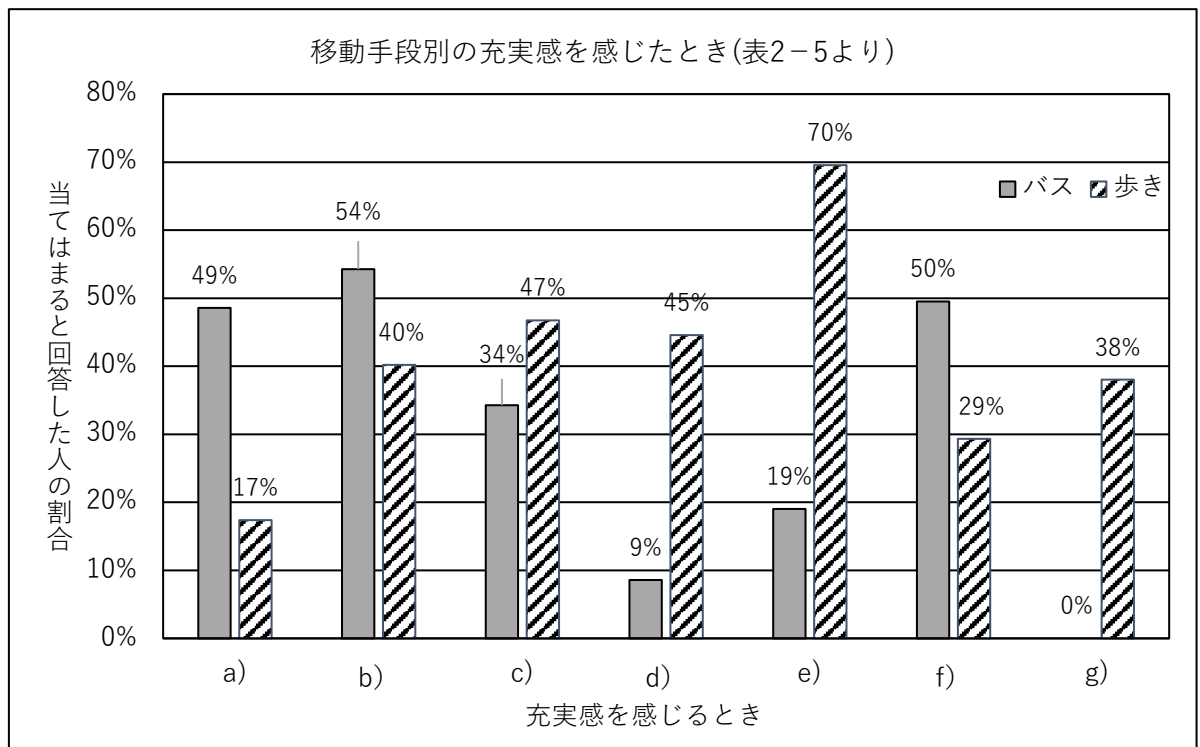
祖国においては病気がちであったイザベラ・バードだが、旅行記の中では危険な冒険を乗り越える卓越した冒険家として描かれ、多くの読者を惹きつけることを意図した恋愛物語の登場人物のように描かれている。(96字)

II

問1 (完答)

31.3%

問2 (解答例)



問3 (解答例)

歩き遍路者が仲間と話すときやお接待といった他者とのコミュニケーション場面を充実感があると感じているのに対して、バスツアー参加者は僧侶の話の聞くときやお大師様を感じたときといった宗教性を感じたときを充実感があると感じている。バスツアー参加者は他の手段が困難な高齢者が多いことが推察され、信仰心の厚い人が多いことが考えられる。また、歩き遍路者は長い時間をかけて歩くため、記事中にもあるお接待を受ける機会が多く、親切にされることへの感謝の念が充実感に繋がるのであろう。また、そういった体験を含めた長い時間をかけて目標を達成したことが重要な意味を持つのだと考えられる。(280文字)

Ⅲ

問1 (解答例)

現代日本では教育を受ける権利は、憲法によって万人に保障されている。しかし、義務教育を除いて、教育の機会は万人に平等に与えられているわけではない。高等学校そして大学への進学のためには、教育資金が必要となるので、それだけの経済的余裕がなければならない。更に志望者の多い受験倍率の高い高校・大学への進学のために学習塾や予備校へ通学するとなると、さらなる教育資金が必要となる。こういった学費以外の教育資金をも家庭が用意できるかどうかは、保護者の収入や資産に大きく左右される。このように考えると、保護者収入の多寡が、子供の教育機会の選択に大きく関与し、結果として学歴格差につながる。学歴格差は就職にあたっても反映されやすく、高収入家庭の子どもと低収入

家庭の子どもとでは、その格差がそのまま維持されてしまい、総体的には両者が社会的に交わることの無い分断へと向かう可能性が高い。(382文字)

問2 (解答例)

経済格差にともなう教育格差と社会の分断

IV (出題意図)

読解力、問題発見能力、言語運用力を総合的に評価する問題。I～IIIで出題された文章を読み解き、その内容(一つないし複数)を自らの議論の素材の一部に用いながら、首尾一貫した論述内容を組み立て、それを説得的に表現する実力を測る。計測に当たっては、出題文I～IIIが扱っている「移動」に関わる問題(一つないし複数)を

- ① 「適切に読解した上で明示的に指摘」し、
- ② その内容に基づいて「論点となる問題を発見」し、
- ③ 「適切な言語表現(語彙選択・構文)を用いて自らの考えを整理し、論理的・説得的にまとめる」

という3つの視点から評価する。